

## 学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成29年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立ふじみ野高等学校		Cグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	専門学科を有する学校の特性を踏まえ、目指す学校像が設定されている。開校から5年を経て次のステージに移行するに当たり、どのような生徒を育成していくかを明確にした上で、新たな視点も加えて、ふじみ野市唯一の高等学校に寄せられる期待に十分応える魅力ある学校像へと工夫できると更に良い。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	目指す学校像を踏まえ、中期的な視点から重点目標が設定されている。基本的な目標が挙げられているので、これまでの歩みを振り返り、学校の将来像を明確にした上で特色を打ち出し、目指す方向をチャレンジングな目標として示すことが望まれる。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	学校評価懇話会の意見について共通理解が図られており、意見などを踏まえて取組が進められている。学校全体と分掌・学年間の連携を図り、よく議論をしながら、より具体的な評価項目や方策について検討・策定して教職員全体の参画を促し、学校自己評価システムが十分機能するように更に工夫していただきたい。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	年間を通じた統計などに基づき、重点的な遅刻指導を行うなど評価項目の達成に向けた方策が実施されていて、成果も上がっている。方策の策定に当たり生徒の変容を視点に取り入れて更に具体的なものとするとともに、評価指標については、何を、どの程度行うのかといった視点から、教職員間で目標の達成イメージが共有できるような分かりやすいものを設定することが望まれる。	
	校長的的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長が学校の現状や課題を踏まえた明確な学校経営の方針を持ち、取り組んでいる。教職員一人一人を的確に生かし、人材育成を行いながら学校の教育力を高めようとする校長の意欲が感じられた。個人と組織の力を組み合わせて、新たな取組に挑戦することが期待される。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	アンケート結果を学校のホームページに掲載し、共通理解を図っている。将来構想検討委員会など学校の将来ビジョンを検討・策定する組織を十分活用するとともに、分掌・学年等と学校全体を連携させて、学校の課題や寄せられるニーズに対応する組織的なPDCAサイクルを確立していただきたい。	
特記事項			